

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.173

2007年10月

平野総長が日印学長懇談会に出席



目次

●ニュース

| | |
|--------------------------------------|---|
| 平野総長が日印学長懇談会に出席 | 3 |
| ハノイ法科大学で日本法教育研究センター開所式を挙 | 4 |
| 全学同窓会ベトナム支部設立総会を開催 | 5 |
| 第15回上野の山発 旬の情報発信シリーズ「宇宙137億年の旅」を開催 | 6 |
| 山本理事がケムニッツ工科大学を訪問 | 7 |
| 研究費等の不正使用防止に関する説明会を開催 | 7 |
| 平成19年度「大学院教育改革支援プログラム」に採択される | 8 |
| 平成19年度「新たな社会ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択される | 9 |
| 平成19年度技術職員研修を実施 | 9 |
| 平成19年度課長補佐研修を実施 | 9 |

●教育のデザインとプラクティス

| | |
|-------------------------------|----|
| プロジェクトギャラリー「clas」を授業で活用しませんか？ | 10 |
| 茂登山 清文（大学院情報科学研究科准教授） | |

●キャンパスクローズアップ

| | |
|-----------|----|
| 豊田講堂（第1回） | 12 |
|-----------|----|

●部局ニュース

| | |
|-------------------------------------|----|
| テクノ・フェア名大2007を開催—知をつなぐ、未来を拓く。— | 14 |
| 日独共同大学院プログラム第4回共同セミナーを開催 | 15 |
| 第16回公開セミナー「天文学最前線～謎に挑む日本の宇宙望遠鏡～」を開催 | 15 |
| 核融合科学研究所と連携・協力に関する協定を締結 | 16 |
| 「先端的大規模計算シミュレーションプログラム利用サービス」説明会を開催 | 16 |
| 留学生日本語研修コース修了式を挙 | 17 |
| 第27回オープンレクチャーを開催 | 17 |
| ユーラシア地質セミナー2007を開催 | 18 |
| 第20回博物館コンサート及び藤井夫妻に対する感謝状贈呈式を開催 | 18 |
| 第2回地球教室「長良川の源流をたずねて」を開催 | 19 |
| 第19回博物館コンサート（NUMco）を開催 | 19 |
| 環境への取り組み | |
| 化学物質系廃棄物の処理—排出者責任と一元管理 | 20 |
| ●名大を表敬訪問された方々 | 21 |
| ●受賞者一覧 | 21 |
| ●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成19年8月16日～9月15日 | 24 |
| ●イベントカレンダー | 28 |
| ●ちょっと名大史 | |
| 『名古屋大学五十年史』一部局史・通史・写真集— | 32 |

平野総長が日印学長懇談会に出席





| | | |
|---|---|---|
| 2 | | |
| 1 | 3 | 4 |

- 1 学長懇談会の様子
- 2 パラム学長（左から2人目）らと会談する平野総長（右から2人目）及び福井康雄理学研究科教授（右端）
- 3 学長懇談会であいさつをする安倍総理（右はシンインド人的資源開発大臣）
- 4 懇談会でプレゼンテーションする平野総長

平野総長は、8月19日(日)から23日(木)までの間インドを訪問し、安倍総理の同国訪問に合わせて開催された日印学長懇談会に出席しました。

今回の訪印では、これまで本学との関係が比較的希薄であったインドの大学との協力を促進するため、本学大学院理学研究科と交流実績があり、インド国内で最も歴史が古く、科学技術の分野でトップクラスの実力を誇るインド科学大学院大学を本学の戦略的パートナー校の一つとして位置付け、近年IT産業の中心地として知られるバンガロールにある同大を訪問し、パララム同大学長らと会談を行いました。

会談では、双方から大学の概要紹介を行った後、今後の実質的な協力として、バイオ、ナノテク、化学、宇宙、工学等の分野におけるワークショップ

の開催、学生の交流、共同研究の実施等を進めていくことに合意しました。

その後、首都デリーへ移動し、日印学長懇談会に出席しました。同懇談会には、日本側から本学を含め12大学(北海道大学、東北大学、東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学、東京工業大学、首都大学東京、京都大学、立命館大学、大阪大学、九州大学)の学長、副学長が、インド側からは国内の有力な13大学(ジャワハラル・ネール大学、ハイデラバード大学、デリー大学、インド科学大学院大学、インディラ・ガンジー国立公開大学、シンピオシス国際大学、

アマリタ大学、インド工科大学デリー校、同チェンナイ校、同カンパール校、同ムンバイ校、インド経営大学、ムンバイ大学)の学長、副学長が参加し、各大学の紹介及び今後の協力についての意見交換を行いました。

会議の最後に安倍総理及びシン人的資源開発大臣に対し、参加大学間の交流・協力を強化し、学長レベルの対話を定期的で開催すること等を謳った議長サマリーが提出され、安倍総理及びシン大臣からも両国政府として日印の大学間交流を支援する旨表明がありました。



ハノイ法科大学で日本法教育研究センター開所式を挙



開所式で祝辞を述べる服部大使



握手するタム学長（左）と松浦研究科長（右）

名古屋大学日本法教育研究センター開所式が、9月7日（金）、ベトナムのハノイ法科大学において行われました。

文部科学省の特別教育研究経費の支援を受け、同センターを設立するのは、2005年のウズベキスタン共和国タシケント国立法科大学、2006年のモンゴル国立大学に続き、3番目となります。同センターでは、金村久美法学研究科特任講師と現地採用の日本語講師が専任講師として日本語教育に当たるとともに、日本法の教育、卒業生へのフォ

ローアップや科学研究費等のベトナム研究の拠点としての機能も期待されています。なお、来年度は4番目のセンターを、カンボジアのプノンペン法経学部に関所する予定で準備が進められています。

当日は、日本から、梅沢 敦文部科学省国際協力政策室長、清水大督同室員をはじめ、平野総長、佐分理事、松浦法理学研究科長、鮎京法政国際教育協力研究センター長ら23名が、また、現地からは、服部則夫在ベトナム日本国大使、中川寛章国際協力機構ベトナム事務所所長、平田 敬日本商工会事務局長、ホアン テリエン ベトナム司法省副大臣、レ ミン タム ハノイ法科大学長ら100名を超える関係者が出席しました。また、平田ベトナム日本商工会事務局長をはじめ、トヨタモーターベトナム、株式会社デンソー、日本貿易振興機構（JETRO）、伊藤忠商事株式会社、豊田合成株式会社、三菱東京 UFJ 銀行等日本企業からの出席もありました。



センター前でテープカットをする平野総長（左）とタム学長（右）

式典では、総長及びタム学長によるあいさつに続いて、リエン司法省副大臣、服部大使らの祝辞があり、同センターの発展と共に今後の人材育成に大きな期待が寄せられました。

引き続き、同センターの教室に移動して、アオザイ姿の同大の学生が持つテープに、総長及びタム学長がハサミを入れました。その後、テレビ会議システムを利用して同センターと本学、モンゴルを結びプレゼンテーションを行いました。

式典終了後は、ハノイ市内のデーウーホテルに会場を移し、全学同窓会ベトナム支部設立総会の参加者と合流し、同センター開所祝賀パーティを行いました。総長及びタム学長のあいさつ、梅沢室長、ダオ チ ウック本学名誉博士（ベトナム国家と法研究所長）らの祝辞の後、小樋山 覚ベトナム・日本人材協力センター長の音頭で乾杯を行いました。日本舞踊や琴の演奏、ベトナム民族音楽演奏等が披露される中、終始和やかにセンターの開所を祝いました。



祝賀パーティであいさつする平野総長（左）

全学同窓会ベトナム支部設立総会を開催



総会の様子

名古屋大学全学同窓会ベトナム支部の設立総会が、9月7日(金)、ベトナムの首都ハノイ市内のデーウーホテルにおいて行われました。これは、本学がハノイ法科大学に日本法教育研究センターを開設するのに合わせて行ったものです。

総会には、平野総長、佐分理事、松浦法学研究科長、伊藤全学同窓会代表幹事、中野富夫同連携委員会委員長が出席し、元留学生、現地駐在員の方々も含め、約70名の出席がありました。

まず、中野委員長の司会のもと、総長から、他の5つの海外支部に引き続いてベトナム支部が設立されたことに対する謝意と、今後の本学の国際交流の促進についての決意が述べられました。続いて、伊藤代表幹事が、全学同窓会の設立の経緯や理念について説明をしました。

その後、総長からベトナム支部の幹事であるレ タイン ロンさんに、同窓会のベトナム支部旗と支部認定書が授与され、ロンさんは「今回のベトナム支部設立を同窓生は大変喜んでおり、今後、名古屋大学全学同窓会の理念に従って、大学や全学同窓会の情報を共有し、名古屋大学の情報発信や国際交流に貢献したい」とあいさつしました。

総会終了後には、参加した元留学生が総長を囲んで、支部旗とともに記念撮影を行う様子が見られました。参加者は、引き続き、日本法教育研究センター開所祝賀パーティーに出席し、楽しい交流のひとつきを過ごしました。



レ タイン ロンさんに支部旗を授与する平野総長(左)



記念撮影

第15回上野の山発 旬の情報発信シリーズ 「宇宙137億年の旅」を開催

本学及び国立科学博物館主催の第15回上野の山発 旬の情報発信シリーズ「宇宙137億年の旅」が、9月8日(土)から17日(月、祝日)まで、国立科学博物館(東京・上野公園)において開催されました。このシリーズは、大学等における研究成果を、体験実習なども交えて小中学生にもわかりやすく展示し、広く社会に発信することを目指して開



展示の様子



体験コーナー



平野総長挨拶

催されたものです。

9月9日(日)には特別講演会が開催され、平野総長の挨拶のあと、理学研究科の杉山 直・芝井 広両教授が宇宙誕生について講演しました。NHK「週刊こどもニュース」でおとうさん役をつとめる鎌田 靖解説員の司会のもと、会場いっぱいの来場者は熱心に講演に耳をかたむけ、多くの質問が出て好評でした。

展示は「ビッグバン-宇宙と物質のはじまり」「銀河、星、惑星が生まれる」「ブラックホールに大接近!」「不思議な物質と生きものの世界」「野依・赤崎記念コーナー：名古屋大学の知と創造」の5つのセクションからなり、最新の成果がパネルで紹介されました。また、粒子加速器、衛星搭載望遠鏡「すざく」と「あかり」、電波望遠鏡「なんてん」などの模型も展示され、ブラックホール・超伝導・葉緑素などの体験実習によって、物理学の面白さを親しみやすく伝える工夫が人気を集めました。

今回は、昨年東京シンポジウムを開催した21世紀COEプログラム「宇宙と物質の起源：宇宙史の物理学的解説」が中心となって実行委員会を組織し、理学研究科の物理学教室と太陽地球環境研究所の大学院生と若手教員が解説を担当しました。この他、理学研究科生命理学専攻、エコトピア科学研究所、男女共同参画室も、企画の一部に参加しました。

これまでの本学による東京での講演会等は、1日から半日程度の開催でしたが、本企画では10日程度にわたる「展示・実習・講演会」の複合的発信が展開されました。これによって、より深みのある強力な情報発信がなされ、期間中に総計15,765名が来場するなど関東地区における本学の認知度の向上にも貢献しました。

山本理事がケムニッツ工科大学を訪問

山本理事は、9月7日(金)、ドイツのケムニッツ工科大学を訪問しました。同大は、学生数約1万人で、7つの学部を擁し、ドイツ東部に位置し、チェコとの国境から車で1時間ほどのところにあります。

山本理事は国際担当のコーネリア ザンガー同大副学長、エーベルハルト アレス同大事務局長らと懇談し、意見交換を行ったほか、同大機械工学部のヘルベルト ムッハ博士の案内のもと、バーチャルリアリティーラボラトリー等、多くの研究室を見学しました。

同大は、本学と2000年4月に大学間学術交流協定を締結しており、国際学術コンソーシアム(AC21)の運営委員会のメンバー校でもあります。また、共同研究など研究者の交流も活発に行われています。

ザンガー副学長からは、以前に短期留学受入れプログラムにより本学に留学していた学生から、プログラムが充実しており、スタッフが日常生活の世話も熱心してくれ、大変感謝しているという報告を受けた、との話も聞くことができました。



懇談の様子 (左側手前が山本理事)



ザンガー副学長と山本理事

研究費等の不正使用防止に関する説明会を開催

研究費等の不正使用防止に関する説明会が、8月27日(月)、31日(金)及び9月13日(木)、経済学部カンファレンスホール及び医学部附属病院講堂において開催されました。計3回開催された同説明会には、合わせて約500名の教職員の参加がありました。

昨今、多発する研究費等の不正使用の事件を受け、文部

科学省により「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」(平成19年2月15日文科科学大臣決定)が策定されました。本説明会は、このガイドラインに対して本学としてどのような措置を講じていくかを教職員に周知するために開催されました。

本学では、ガイドラインに対応するため、不正使用防止に関する責任と権限を持つ最高管理責任者や統括管理責任者、不正使用防止計画を策定する委員会等を置くとともに、物品納品を確認するための検収センターや相談窓口等を設置する予定です。

説明会では、山本理事からガイドライン全般、松川財務部長から物品納品に関しての説明がそれぞれありました。参加者からは、特に物品の納品確認に関する質問が相次ぐなど、説明内容に対して高い関心が示されました。

今後も、随時、不正使用防止に対する取り組みについての説明会を開催したり、研究推進室において教職員の行動規範の作成、意識向上を図るための研修等の計画を策定するなど、全学をあげて研究費等の不正使用防止を進めていきます。



会場の様子

平成19年度「大学院教育改革支援プログラム」に採択される

文部科学省「大学院教育改革支援プログラム」が選定され、本学から下記の5件（人社系2件、理工農系2件、医療系1件）が採択されました。

「大学院教育改革支援プログラム」は、「新時代の大学院教育」（平成17年9月5日中央教育審議会答申）、「大学院教育振興施策要綱」（平成18年3月30日文部科学省）等を踏まえ、社会の様々な分野で幅広く活躍する高度な人材を育成する大学院博士課程、修士課程を対象として、優れた組織的・体系的な教育の取り組みに対して重点的な支援を

行うことにより、大学院教育の実質化を推進することを目的とするものです。

今年度は、国公立大学における大学院研究科専攻（博士課程、修士課程）の人材養成の目的及びこれまで実施してきた教育の取り組みを踏まえた、教育プログラムを対象として、人社系・理工農系・医療系の分野で募集があり、国公立大学から154校355件（人社系124件、理工農系169件、医療系62件）の申請があり、審査の結果、61校126件（人社系53件、理工農系53件、医療系20件）が採択されました。

【申請分野：人社系】（全124件中53件採択）

プログラム名称：

法整備支援をデザインできる専門家の養成

主たる研究科・専攻名：

大学院法学研究科総合法政専攻

取組実施担当者：

大屋 雄裕法学研究科准教授

プログラム名称：

国際協力型発信能力の育成

（高度国際人育成のための実践プログラム）

主たる研究科・専攻名：

大学院国際開発研究科国際開発専攻、国際協力専攻、

国際コミュニケーション専攻

取組実施担当者：

西村 美彦国際開発研究科長

【申請分野：理工農系】（全169件中53件採択）

プログラム名称：

モノから生体をつなぐ物質科学者養成

主たる研究科・専攻名：

大学院理学研究科物質理学専攻（物理系）

取組実施担当者：

平島 大理学研究科教授

プログラム名称：

学生プロジェクトを支援する数理科学教育

主たる研究科・専攻名：

大学院多元数理科学研究科多元数理科学専攻

取組実施担当者：

金銅 誠之多元数理科学研究科長

【申請分野：医療系】（全62件中20件採択）

プログラム名称：

専攻横断型の包括的保健医療職の育成

主たる研究科・専攻名：

大学院医学系研究科看護学専攻、リハビリテーション

療法学専攻

取組実施担当者：

奈良間 美保医学部教授

平成19年度「新たな社会ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択される

文部科学省「新たな社会ニーズに対応した学生支援プログラム」が選定され、本学から下記の取り組みが採択されました。

同プログラムは、学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため、各大学・短期大学・高等専門学校における、入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムのうち、学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果が期待される取り組みを含む優れたプログラムを選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、各大学等における学生支援機能の充実を図ることを目的とするものです。

今年度は、272件の申請があり、審査の結果、70件が採択されました。

| プログラム名称 | プログラム担当者 |
|----------------------|------------------------|
| 潜在的支援力を結集した支援メッシュの構築 | 鈴木 國文 (学生相談総合センター長) |

平成19年度技術職員研修を実施



技術職員研修の様子

平成19年度技術職員研修(情報通信・分析物質コース)が、9月11日(火)から13日(木)の3日間にわたり、創造工学センター等において実施されました。この研修は、本学の技術職員に対し、その職務に必要な専門的知識及び技術を修得させ、技術職員の資質の向上と応用能力の開発及び養成を図ることを目的として、全学技術センターが主体となり計画・実施しているもので、今回は13名が参加しました。

まず、山本理事・全学技術センター長が「名古屋大学における技術支援」と題した講義を行った後、知的財産の取扱い方法等、技術職員にとって必要な基礎知識の修得を行いました。次に、情報通信、分析物質の各コースに分かれて専門講義及び実習を行い、より実践的なプログラムにより、昨今重視されている技術を学びました。

本研修で得た個々の技術の向上をきっかけに、受講者一人ひとりの今後ますますの活躍が期待されます。

平成19年度課長補佐研修を実施



課長補佐研修の様子

平成19年度課長補佐研修が、9月12日(水)から14日(金)の3日間にわたり、理学部1号館309号室及び環境総合館レクチャーホールにおいて実施されました。この研修は、本学の課長補佐級の職員に対し、業務遂行・組織運営に必要な管理能力についての基本的な考え方を習得するとともに、ロジカル・コミュニケーションの重要性について理解を深めることを目的として今年度から実施しているもので、今回は法人化以降に昇格した29名が参加しました。

まず、高橋事務局長から課長補佐職への期待を込めた講話があり、その後、部課長等による講義、本学についての知識を問うミニテスト、先輩職員からの経験談の披露などが行われました。2日目以降は、マネジメントスキル、コミュニケーションスキルについてグループワークを中心とした研修が行われ、積極的に意見交換を行いました。

本研修に参加した課長補佐級の職員の活躍により、今後のよりよい大学づくりが期待されます。

プロジェクトギャラリー「clas」を授業で活用しませんか？

茂登山 清文 大学院情報科学研究科准教授

ギャラリー開設の意義

キャンパスも施設も、もちろんカリキュラムも、名古屋大学はたいへん充実しています。そのなかで少し物足りなく思っていたことのひとつは、アートやデザインなどに親しむ場があまり多くないことでした。それらは視覚を通して、オーソドクスな研究や教育とは異なった方法で「知への扉」を用意してくれます。例えば、想像力、これはあらたな発見発明へと導く源です。また、視覚的なりテラシーを獲得することで、言葉をこえたコミュニケーションも可能になります。

改修のなった全学教育棟の南館にできたギャラリーは、そんな力をつける場となることを目指しています。少し堅く言うなら、複眼的な思考と総合的な知識を育成し、地域文化の向上に資することが目的です。正式な名称は『名古屋大学教養教育院プロジェクトギャラリー「clas」』で、「clas」は「cell for liberal arts & sciences」つまり「教養教育のための小部屋、細胞」を意味します。場所は、南入口（今は中館の工事のため、ここがメインの入口です）の横です。その入口と南面の木製デッキからは、ガラスを透してギャラリーの中が見えるので、側を通るだけでも雰囲気がわかるという仕組みです。

ギャラリーは5月の終わりにオープンしました。カジュアルなパーティには、多くの教職員や学生が集まり、若尾教養教育院長より、心のこもったご挨拶をいただきました。また最初の展覧会には、平野総長もおこしになり、興味深げに作品を見ていただくことができました。



ギャラリーでのトーク



造形実験カロスの体験できる展示



デッキでの歓談



総長視察

授業とのつながり

夏休みまでに、写真や映像、絵画などの平面表現、家具（のようなもの?）、そして石の彫刻と、ヴァリエーションに富んだ4つのプログラムをおこないました。どれも、全学教育の幾つかの授業と連動していて、レポートの題材ともなっています。

現代のアートについて、「わからない」という声をよく聞きます。「わからない」から「考える」のが、アートに接することの大切さだと思うのですが、会場には、理解のきっかけとなるようにと、テキストを置いています。作品を説明するのではなくて、見る人が作品に向き合い、自分の力で創造的な鑑賞をおこなえるようにと考えてのことです。また制作者らによるトークも公開でおこなっていて、直接話す機会も設けています。これまでとってきたアンケートでは、プログラムやスペースに対して、高い評価をもらうことができました。

鑑賞への気づかいと運営

学生たちは、残念なことに美術館やギャラリーなどに足を運ぶ機会が、多くはないようです。ですから作品に接するマナーや空間での振舞いについては、少し意識が必要でしょう。でもそれは難しいことはありません。基本は、他者がつくったもの（アートもそのひとつです）に敬意をもって接することです。目の前に置かれている作品は、静かに鑑賞するものなのか、触れてもいいのか、あるいは、インタラクティブに楽しむのか、そんなこともひとつひとつ考えてみるといいでしょう。ギャラリーは、そうした知恵を得る場とも考えられます。

一方、この空間を維持し、安全に管理するには、運営態勢が必要です。そのために「教養教育院共用施設要項」が定められ、それにもとづいてワーキンググループが運営にあたっています。また、日常的なメンテナンスやウェブ上での情報提供、活動記録の編纂などのために、専門性を持った院生スタッフが組織されていて、予算的には総長裁量経費もつけていただきました。

今後、授業の資料や成果の展示、それに学生や教職員の作品発表、あるいはセミナーなどの場として、みなさんにおおいに活用いただきながら、素晴らしい空間として育てていきたいと思えます。

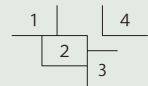
（利用については、教養教育院教務学生掛へお問い合わせください。プログラムはウェブサイトでご覧ください。仮 URL：www.vision.ss.is.nagoya-u.ac.jp/clas/）

1975年京都大学工学部建築学科卒業。1983年同大学院博士課程後期課程建築学専攻単位取得退学。名古屋芸術大学美術学部教員、1998年名古屋大学人間情報学研究所助教授を経て、現職。情報デザイン、コンテンポラリーアートを通じて、電子ネットワーク社会における視覚文化を研究している。共著として、学生にひろくデザインの考え方と実際を説いた『情報デザインバイシクス』ほかがある。

もとやま きよふみ



19. 豊田講堂（第1回）



- 1 改修・増築工事の様子
- 2 竣工当時の様子（1960年）
- 3 改修後の豊田講堂イメージパース（アトリウム）
- 4 改修後の豊田講堂イメージパース（ホール）

現在、豊田講堂の改修・増築工事が行われています。昨年12月から着工した本工事は、トヨタ自動車株式会社をはじめとするトヨタグループ企業10社の寄附により進められています。

豊田講堂は1959年（昭和34年）、トヨタ自動車工業株式会社（当時）の寄附により建設されたもので、鉄筋コンクリート造（講堂シェル構造）地下1階・地上3階建て、建築面積3,123.6m²、述べ床面積6,270.2m²、講堂客席1,612席を有しています。

同講堂の建設は、寄附者であるトヨタ自動車工業株式会社の意向により、当時ワシントン大学助教授の榎文彦氏が設計を担当し、竹中組（現在の株式会社竹中工務店）が施工を担当しました。

建物名称は、寄贈者の社名であるカタカナ表記の「トヨタ講堂」ではなく、「発明王豊田佐吉翁を記念する意味」を込めて「豊田講堂」と名付けられました。

竣工後47年を経過し、大きく様変わりをした名古屋大学を含めた東山地区周辺の中であって、現在もなお名古屋大学の骨格としてつくられたグリーンベルトの東の端にモニュメンタルに鎮座するその姿は堂々とし威厳を感じさせるものです。豊田講堂は、完成後まもなく1962年には日本建築学会賞を受賞、その後1993年に



は歴史的建造物が少ない名古屋市にとって、都市景観を形成していく上で地域のシンボルとなるような重要建築物を守っていくことを目的とした「都市景観重要建築物」に指定され、また2003年には、DOCOMOMO（Documentation and Conservation of buildings, sites and neighbourhoods of the Modern Movement）JAPAN日本近代建築100選にも選定され日本を代表するモダニズム建築の一つとされました。



豊田講堂は、今日までの47年間、建物本体（外壁・トップライト・講堂座席等）や設備機器（空調・便所等）等、幾度かの改修工事が施されてはいますが、大規模な改修工事は行われておらず、経年による建物本体の老朽化のみならず、時代の変化

による機能的な老朽化も著しい状態となっていました。

今回の増築・改修工事の計画案には、豊田講堂の再生と機能強化のため、**耐震補強等のほか**、

- ①外観の復元（コンクリート打放し等）
- ②アトリウムの増設（座席スペースの増床等）
- ③講堂客席の機能改善
（座席・空調・音響・照明等）
- ④舞台の機能改善
（ステージ・袖舞台・舞台照明・音響等）
- ⑤ギャラリーの整備
（展示・パフォーマンススペース等）

が盛り込まれています。

また、本工事は1959年建設当時と同じく、設計を豊田講堂設計以降、世界的に活躍する建築家となった株式会社槇総合計画事務所代表取締役の槇文彦氏が担当し、施工者を株式会社竹中工務店が担当し、トヨタ自動車株式会社プラントエンジニアリング部の監理のもと、2007年（平成19年）12月完成を目標に、現在順調に工事が進められています。

今回は実際に行われている増築・改修工事の詳細についてご紹介します。

（施設管理部）



テクノ・フェア名大2007を開催－知をつなぐ、未来を拓く。－

●大学院工学研究科



あいさつする小野木研究科長



講演会場の様子

大学院工学研究科は、9月7日(金)、IB電子情報館において、大学院環境学研究科、大学院情報科学研究科、エコトピア科学研究所及び大学院医学系研究科の共催を得て、「テクノ・フェア名大2007－知をつなぐ、未来を拓く。－」を開催しました。

同フェアは、大学にある技術シーズを展示するとともに、研究室公開、講演会等を通じ、大学の研究成果を産業界等に広く公開し、より一層の産学官連携と地域産業の更なる活性化を推進することを目的として毎年開催しているもので、8回目となる今回は、中部地区の経済界、企業の研究開発担当者、報道関係者等約1,000名の来場がありました。

午前中に行われた基調講演では、主催者側を代表して小野木工学研究科長が、「産学連携の視点と役割」と題した講演を行い、引き続き、堀勝同研究科教授が、「プラズマによる産業革新」と題し、昨年10月に同研究科に設置

された附属プラズマナノ工学研究センターが取り組んでいる、低温プラズマの産業への応用の可能性について講演を行い、約200名が熱心に耳を傾けていました。

講義室では、展示会場で紹介しているシーズの中から19のシーズについて、研究者が直接、研究内容を説明するミニ講演が行われ、各講演には、多くの聴講者が詰めかけ、説明者の話を熱心にメモにとる姿などが見受けられました。

午後から行われた研究室見学では、100名以上の希望者があり、研究室の教員や大学院学生の説明に聞き入っていました。また、今年度は、研究室見学の一環として、中部科学技術センターとの共催による研究施設見学会と科学技術振興機構の事業である「対人地雷の爆薬探知を目指した試作機の製作」を受託した研究室の公開デモを併せて実施しました。

展示ブース会場では、企業の研究開発担当者等が多数詰めかけ、各ブースの担当者による研究成果等の説明や実用化に向けての相談等について活発な意見交換が行われるなど、企業側の同フェアに対する高い関心と大きな期待がうかがえました。



講演する堀教授



ミニ講演会場の様子



多くの来場者で賑わう展示ブース会場



展示ブース担当者による実演の様子



展示ブース担当者の説明を熱心に聞く来場者

日独共同大学院プログラム第4回共同セミナーを開催

●大学院理学研究科、物質科学国際研究センター

日独共同大学院プログラム第4回共同セミナーが、9月6日(木)、7日(金)、ドイツのミュンスター大学において開催されました。

今年から日本学術振興会の正式プログラムとなった同プログラムは、本学がパイロットプログラムとして行ってきたもので、同セミナーの開催は今回で4回目となります。

セミナーの開催に当たっては、ミュンスター大学側のIRTG (International Research Training Group) メンバーの学生によって全ての運営・進行が行われました。本学からは山本理事、コーディネーターの巽物質科学国際研究セ

ンター長を含む教員7名と学生5名が参加し、研究発表後の質疑応答、ポスターセッション等ではお互いの研究に関する情報交換等を活発に行いました。

セミナー前日の5日(水)には、山本理事、巽センター長、丹生久美子日本学術振興会国際事業部研究協力第二課長らがウースラ ネレス ミュンスター大学総長らと会談し、研究面での交流状況等について広く意見交換を行いました。

また、日独双方の学生が、同プログラムにおける経験談などを発表し、滞在中に起こった問題やお互いの国で学んだ事などについて、学生の立場からどのように取り組んで行くかなどが話し合われました。

さらに、本学学生のために同大の学生によるキャンパスツアーなども行われ、同大の歴史と自然等にも触れる事ができました。



会談後の記念撮影



キャンパスツアーの様子

第16回公開セミナー「天文学最前線 ～謎に挑む日本の宇宙望遠鏡～」を開催

●大学院理学研究科

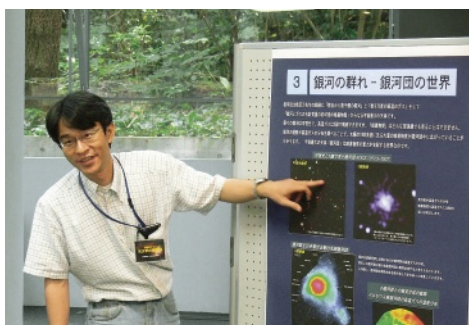
大学院理学研究科は、8月25日(土)から27日(月)までの3日間にわたり、本学の宇宙研究グループと名古屋市科学館の共催のもと、第16回公開セミナー「天文学最前線 ～謎に挑む日本の宇宙望遠鏡～」を開催しました。

同セミナーは、スタッフや大学生が手作りで運営する夏休み恒例の企画で、1、2日目は本学IB電子情報館大講義室及び名古屋市科学館サイエンスホールで行われ、267名の参加があり、半数近くが教員、大学生、高校生でした。

今回は、一昨年から昨年にかけて打ち上げに成功した3

つの宇宙望遠鏡、「すざく」、「あかり」、「ひので」を中心とした天文学の最新の観測成果を紹介しました。他機関からの招へい講師も含めた10名の最先端研究者による講演、座談会や科学館のプラネタリウム見学など、盛り沢山の内容でした。

最終日には、58名の参加を得て研究室紹介が行われ、熱心な参加者から高度な質問が飛び出す有意義なセミナーとなりました。



研究室紹介で研究成果を解説するスタッフ



熱心に聴講する参加者

核融合科学研究所と連携・協力に関する協定を締結

●エコトピア科学研究所

エコトピア科学研究所は、9月13日(木)、同研究所長室において、松井同研究所長、北川副所長、片山副所長、大野哲靖同研究所准教授、本島 修核融合科学研究所長、須藤 滋同副所長、川端一男同研究主幹、山田弘司同研究主幹及び佐藤元泰同連携研究推進センター長列席のもと、連携・協力に関する協定締結の調印式を挙行了しました。



調印式後握手を交わす松井所長（左）と本島所長（右）

調印式では、松井所長及び本島所長があいさつの後、協定書に調印しました。

本学と核融合科学研究所は、これまでも核融合科学に関する共同研究を推進してきましたが、本協定の締結を機に、エネルギー分野のみならず幅広い分野で更なる連携・協力を推進することにより、地球環境に対する負荷を低減した環境調和型の持続可能な社会の実現に関する学際研究や、我が国の核融合エネルギーの実現に関する学術及び科学技術の振興に寄与できるものと考えています。

「先端的大規模計算シミュレーションプログラム利用サービス」説明会を開催

●情報連携基盤センター

「先端的大規模計算シミュレーションプログラム利用サービス」説明会が、8月23日(木)、情報連携基盤センターにおいて開催されました。これは、文部科学省が平成19年度に新設した「先端研究施設共用イノベーション創出事業」の「産業戦略利用」プログラムとして採択されたもので、全国共同利用施設としての情報基盤センター群（北大、東

北大、東大、京大、大阪大、九大、本学）と東京工業大学が、社会貢献の一環として、各大学が開発した応用ソフトウェアと各大学が所有するスーパーコンピュータをそれらの利用支援サービスと一体化して民間企業に提供し、イノベーション創出を支援するものです。

現在、企業では、幅広い分野で計算シミュレーションが利用されており、大学では、こうした企業の計算機利用を「戦略分野利用推進」及び「新規利用拡大」の観点から支援していきます。戦略分野利用推進としては、ライフサイエンス、ものづくり技術、情報通信、環境エネルギー、社会基盤分野を対象に、大学で開発されたRSS21等の先端的シミュレーションソフトウェアとスーパーコンピュータの利用課題を民間企業から募り、新規利用拡大としては、企業が有するアプリケーションを利用した課題、新規アプリケーションを開発する課題を募ります。本学では、特に、ものづくり分野の中のソフトマテリアル統合シミュレータOCTAを提供します。

当日は、石井克哉情報連携基盤センター教授から事業の趣旨、システム性能や応募手続き等の説明があった後、活発な質疑応答を行いました。



説明会の様子

留学生日本語研修コース修了式を挙

●留学生センター

留学生センター外国人留学生第56期日本語研修コース及び第26期日本語・日本文化研修コース修了式が、9月11日(火)、文系総合館カンファレンスホールにおいて挙行されました。

修了式では、石田同センター長から研修生に修了証書が授与された後、石田センター長、杉山理事より研修修了の祝福と今後の研鑽に対する激励の言葉が贈られました。続いて、研修生を代表して、半年間の日本語研修生のホークチンさんと、1年間の日本語・日本文化研修生の

リュウ ヒョウさんが研修での思い出をふりかえりながら、感謝のスピーチをしました。

引き続き行われた懇談会では、研修生全員が留学生生活を振り返ってスピーチを行いました。留学生生活はかけがえのない経験だったという声が多く聞かれ、大変な努力をして日本語の勉強に取り組んでいた様子が伝わってきました。また、研修生はお世話になった教職員らにお礼の言葉を述べたり、留学生生活を振り返る写真の披露があり、会場はなごやかな雰囲気となりました。



石田センター長から修了証書を授与される研修生



記念撮影

第27回オープンレクチャーを開催

●附属図書館

附属図書館研究開発室は、9月10日(月)、同館5階多目的室において、第27回オープンレクチャーを開催しました。

これは、同室が掲げるハイブリッド図書館の研究開発及び学術情報流通を主なテーマとして、平成14年度から学内外の方を対象に開催しているもので、今回は、神保文夫法学研究科教授により、「江戸庶民の文藝と法－川柳近世法

制史－」と題した講演を行いました。

講演では、庶民文藝ともいべき川柳を題材として、普段なじみの薄い江戸時代の法制度と当時の人々の法意識について紹介しました。川柳－五七五の短詩には、人情の機微を突き、あるいは社会や世相を風刺して、思わず微笑させられるものが少なくありません。文学として鑑賞するだけでなく、いわば「法制史川柳」という観点から読み解くことにより、江戸時代における法の諸相が探られました。会場は多数の来場者が、川柳に耳を傾けつつ、江戸時代の人々の暮らしぶりに思いを馳せていました。



オープンレクチャーの様子

ユーラシア地質セミナー2007を開催

●博物館

博物館は、7月18日(水)から28日(土)の間、モンゴル国モンゴル科学技術大学において、同大層序古生物学研究センター、モンゴル鉱物資源石油局地質情報センター及びIGCP516(ユネスコの国際地質対比計画(International Geological Correlation Project)のプロジェクトナンバー516番)との共催で、ユーラシア地質セミナー2007を開催しました。

同館は、モンゴル科学技術大学層序古生物学研究センター及びモンゴル鉱物資源石油局地質情報センターと共同

研究を行っており、アジアの地質(テクトニクス)に関して大きな成果を上げつつあります。同館と、両センターは、2006年に学术交流協定を締結し、これに基づき、今年10月と12月に両センターから研究者計3名を受け入れ、10月と1月には、4名の博物館教員をモンゴル科学技術大学に派遣する予定です。

プロジェクト開始5周年と学术交流協定締結を記念して開催された同セミナーでは、7カ国から100名以上が参加しました。セミナーは、シンポジウムと地質見学旅行から

なり、シンポジウムではアジアのテクトニクスや資源開発など学術的テーマだけではなく、東アジア各国の今後の協力体制についても活発な議論・意見交換が行われました。



シンポジウムの様子



記念撮影

第20回博物館コンサート及び藤井夫妻に対する感謝状贈呈式を開催

●博物館

博物館は、9月15日(土)、博物館展示室において、藤井義子氏、徳田あつ子氏、中野振一郎氏による第52回コレgium・ムジクムチェンバロコンサートを開催しました。同コンサートは、これまで毎回シンポジオンホールで行われてきましたが、今年度は改修のため、第20回博物館コンサートとして博物館で行われました。

コンサートに先立ち、過去15年間にわたり本学においてチェンバロの定期演奏会を開催し、本学から芸術・文化の香りを地域社会に発信してきた藤井正行・義子夫妻に対し

て、平野総長から感謝状の贈呈が行われ、会場の満員の聴衆から温かい拍手が送られました。

コンサートでは、国際的チェンバリストの中野氏による西洋音楽とチェンバロの歴史、各曲目の解説とその誕生の背景、そして同コンサートのテーマである「変奏曲」に関する軽妙なトークがあり、約280名の聴衆は大学で行われる演奏会ならではのアカデミックなコンサートを楽しんでいました。



平野総長(左)と藤井氏(右)



コンサートの様子

第2回地球教室 「長良川の源流をたずねて」を開催

●博物館



長良川の源流で、滝と安山岩が作り出す景観を観察する参加者

博物館は、8月25日(土)、26日(日)の2日間にわたり、名古屋市科学館との共催で、親子フィールドセミナー「第2回地球教室 長良川の源流をたずねて」を開催しました。

今回は、未就学児から中学生まで11名とその保護者9名の計20名が参加し、日本海側へ流れる庄川の上流と太平洋側へ流れる長良川の源流から河口までや、両河川の分水嶺など合計10地点を観察しながら移動し、郡上八幡に宿泊しました。

河原では、礫の大きさ、形や種類に注目して、上流・中流・下流それぞれでの違いを知り、岩石の種類や後背地の地質の違いについて理解を深めました。河原以外の観察地では、分水嶺と木曾三川公園で地形的な特徴などについて学んだ他、源流付近の川幅と長良川河口堰での川幅をそれぞれ歩測して川の変化を体感しました。参加者には、スケールの大きな野外学習として好評を得ました。

第19回博物館コンサート (NUMco) を開催

●博物館



コンサートの様子

博物館は、8月28日(火)、同館展示室において、第19回博物館コンサート (NUMco) を開催しました。

「魅惑の四重奏」と題したこのコンサートでは、愛知室内オーケストラのメンバーである野村和代さん(ファゴット)、都原奈央さん(ヴァイオリン)、小松 大さん(ヴィオラ)、長谷川彰子さん(チェロ)が、普段オーケストラでは主旋律を奏でることの少ないファゴットが中心となる、F. ドゥヴィエヌの「ファゴット4重奏 第二番」、F. ダンツィの「ファゴット4重奏曲 Op. 40-2」を、「ムーンライトセレナーデ」などの軽い曲などを織り交ぜながら演奏し、約250名の参加者を魅了していました。

化学物質系廃棄物の処理－排出者責任と一元管理

教育・研究活動に伴い発生する化学物質系の廃棄物は、環境や健康に悪影響を及ぼすものが少なくなく、適正に管理及び処理する必要があります。本学では、化学物質系の廃棄物の取り扱いについて「環境・廃棄物管理指針」を定め、有機廃液、無機廃液、写真廃液等の分類ごとに全学で一元的に回収し外部委託で処理を行っています。廃棄物という言葉は、日常的によく使われますが、社会的にはどのように位置付けられているのでしょうか。また、その管理及び処理をどのようにすべきなのでしょう。ここでは、それらについて紹介し、本学で一元管理する意義について説明します。

廃棄物に関する法律として廃棄物処理法があります。法では、「事業者（大学も該当）は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければならない」と規定して、排出事業者の処理責任（排出事業者責任）を明確にしています。法で廃棄物とは、「占有者が自分で利用したり他人に有償で売却できないために不要となった固形状または液状のもの」をいい、産業廃棄物と一般廃棄物に分類されます。産業廃棄物の中で、爆発性、毒性、感染性、その他、人の健康や生活環境に被害を生じるおそれがあるものを特別管理産業廃棄物と分類し、収集から処分まで全ての過程において厳重に管理することとされています。したがって、化学物質系の廃棄物は、特別管理産業廃棄物または産業廃棄物と位置付けられます。

法で、「自らの責任において適正に処理する」とありますが、事業者は処理業者に処理を委託することができます。この場合、廃棄物を処理業者に引き渡したことでその処理

が終了する訳ではなく、排出事業者が行わなければならない責務があります。まず、排出事業者は法で定める委託基準に従って処理業者と委託契約しなければなりません。委託処理した場合でも、廃棄物が無害化され最終処分に至るまでが排出事業者の処理責任であり、不法投棄された場合には排出事業者も刑事処分を受けます。産業廃棄物の収集運搬や処分等の処理の流れを自ら把握して不法投棄の防止など、適正な処理を確保するために、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して、産業廃棄物と一緒に流通させる制度が法的義務となっています。また、排出事業者は、産業廃棄物の処分状況を正確に記載した帳簿を作成することが法で定められています。そして、マニフェストや帳簿の内容を自治体に報告しなければなりません。これらのことを怠ると、刑事処分の対象となります。したがって、排出事業者は、信頼できる処理業者に産業廃棄物の処理を委託するとともに、委託基準やマニフェストに係る義務を遵守することにより、不適正処理の未然防止に努める必要があります。

上述のとおり、廃棄物の処理には重大な社会的責任があり、それを遂行するための労力は決して少なくはありません。本学では、環境安全衛生管理室や施設管理部が中心となって廃棄物を一元管理し排出事業者責任を全うするよう努めておりますが、適正な廃棄物処理を行うためには「環境・廃棄物管理指針」に従った排出者の協力が必須であります。また、研究室の安全性の確保のためには、毒劇物やPRTR法の関連物質の試薬の管理や作業環境測定と合わせて、化学物質系廃棄物の適正な管理を行う必要があります。

産業廃棄物の種類

| あらゆる事業活動に伴うもの | |
|--|----------------------------|
| (1) 燃え殻 | (7) ゴムくず |
| (2) 汚泥 | (8) 金属くず |
| (3) 廃油 | (9) ガラスくず、コンクリートくずおよび陶磁器くず |
| (4) 廃酸 | (10) 鉱さい |
| (5) 廃アルカリ | (11) がれき類 |
| (6) 廃プラスチック | (12) ばいじん |
| 特定の事業活動に伴うもの | |
| (13) 紙くず | (17) 動物系固形不要物 |
| (14) 木くず | (18) 動物のふん尿 |
| (15) 繊維くず | (19) 動物の死体 |
| (16) 動植物性残さ | |
| (20) 以上の産業廃棄物を処分するために処理したもので、上記の産業廃棄物に該当しないもの（例えばコンクリート固形化物） | |

特別産業廃棄物の種類

| | |
|---|--------------------------------|
| 廃油（揮発油類、灯油類、軽油類の燃えやすい廃油） | |
| 廃酸、廃アルカリ (pH2.0以下の酸性廃液、pH12.5以上のアルカリ性廃液) | |
| 感染性産業廃棄物 (感染性病原体を含むか、そのおそれのある産業廃棄物) | |
| 特定有害 産業廃棄物 | 廃PCB等、PCB汚染物、PCB処理物 |
| | 廃石綿等 |
| | 有害産業廃棄物 (重金属や有機塩素化合物等の指定物質) |

6.18 フルブライト国際教育交流プログラム職員

フルブライト国際教育交流プログラムの一環として我が国の高等教育について調査を行うことを目的に、表敬訪問するとともに、国際開発研究科において外国人留学生の英語による授業等の取り組みについて説明を受けるため、同研究科を訪問されました。



6.26 台湾・南台科技大学長等

南台科技大学の学術交流協定校である日本工業大学の創立100周年式典行事に出席することを機会に、日台の学術交流について意見交換を行うことを目的として、表敬訪問されました。



8.30 吉林大学長等

東北大学の創立100周年記念式典に出席することを機会に、本学を訪問され、野依記念物質科学研究館、赤崎記念研究館、博物館を視察されました。



9. 6 台湾・国立政治大学法学院院長等

我が国の法科大学院制度を調査するため、法学研究科の視察を目的として、本学を訪問されました。また、国立政治大学の創立80周年を記念した冊子100冊が本学に寄贈され、陳院長から杉山理事に目録が手渡されました。



受賞者一覧

教員

| 受賞日 | 受賞名 | 所属・職名 | 受賞者 | 備考 |
|-----------|------------------------|-------------------|-------|--|
| H19. 3.23 | 長野県看護協会会長表彰 | 医学部保健学科教授 | 太田 勝正 | |
| H19. 5.25 | 電子情報通信学会 業績賞 | 大学院工学研究科准教授 | 岩田 哲 | 黒澤 馨（茨城大学教授）と連名 |
| H19. 6. 1 | 第1回（2007年）日本物理学会若手奨励賞 | 大学院理学研究科准教授 | 紺谷 浩 | |
| H19. 6.18 | 人工知能学会・研究会優秀賞 | 大学院情報科学研究科助教 | 鳥海不二夫 | 石田 健（大学院情報科学研究科 M2）、石井健一郎（大学院情報科学研究科教授）と連名 |
| H19. 6.21 | 日本学術振興会 プラズマ材料科学賞 | 大学院工学研究科教授 | 河野 明廣 | |
| H19. 6.21 | プラズマ材料科学賞 | エコトピア科学研究所 准教授 | 井上 泰志 | |
| H19. 6.23 | 日本ドイツ学会奨励賞 | 国際言語文化研究科准教授 | 山口 庸子 | |
| H19. 7. 4 | Iawe 研究奨励賞 | エコトピア科学研究所 准教授 | 北川 徹哉 | |
| H19. 7. 5 | M&A フォーラム賞正賞 『RECOF 賞』 | 大学院経済学研究科教授 | 加藤 英明 | 井上光太郎（慶應義塾大学准教授）と連名 |

受賞者一覧

| 受賞日 | 受賞名 | 所属・職名 | 受賞者 | 備考 |
|------------|---|-------------------------|-------|--------------------------|
| H19. 7. 6 | 有機合成化学協会東海支部 有機合成化学協会 東海支部奨励賞 | 大学院工学研究科講師 | 波多野 学 | |
| H19. 7.12 | 3次元画像コンファレンス2006 優秀論文賞 | 大学院工学研究科准教授 | 藤井 俊彰 | |
| H19. 7.13 | 日本機械学会 生産システム部門 優秀講演論文賞 | 大学院工学研究科講師 | 樋野 励 | |
| H19. 7.20 | 第53回高分子研究発表会 「ヤングサイエンティスト講演賞」 | 大学院理学研究科助教 | 上野 隆史 | |
| H19. 7.24 | 可視化情報学会 学芸賞 (論文賞) | 大学院工学研究科准教授 | 渡慶次 学 | |
| H19. 8.2-6 | 14th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed towards Organic Synthesis OMCOS Poster Prize in Organometallic Chemistry | 大学院工学研究科講師 | 波多野 学 | |
| H19. 8. 3 | 応用物理学会 フェロー表彰 | 大学院工学研究科教授 | 財満 鎮明 | |
| H19. 8.6-9 | 2007 International Metallographic Contest, 3rd Place in CLASS 3: Electron Microscopy- Transmission | 大学院工学研究科助教 | 安坂 幸師 | 他3名と連名 |
| H19. 8.10 | 第61回セメント技術大会 優秀講演者賞 | 大学院環境学研究科准教授 | 丸山 一平 | |
| H19. 8.16 | アルゼンチン原子力委員会 功績賞 | エコトピア科学研究所教授 | 高井 治 | |
| H19. 8.27 | Applied Catalysis B:Environmental, Most Cited Author 2001-2005 | 大学院工学研究科助教 | 清水 研一 | |
| H19. 8.29 | 日本建築学会奨励賞 | 大学院環境学研究科准教授 | 丸山 一平 | |
| H19. 9. 1 | 2007年日本第四紀学会奨励賞 | 年代測定総合研究センター 研究機関研究員 | 工藤雄一郎 | |
| H19. 9. 5 | 第2回アジア先端有機化学国際会議 レクチャーシップアワード | 大学院工学研究科教授 | 西山 久雄 | |
| H19. 9. 5 | DONALD R.ULRICH AWARD | 大学院工学研究科助教 | 片桐 清文 | |
| H19. 9. 8 | 日本分析化学会中部支部 中部分析化学奨励賞 | 大学院工学研究科助教 | 長谷川拓也 | |
| H19. 9. 8 | 日本分析化学会中部支部 中部分析化学奨励賞 | 大学院工学研究科助教 | 加地 範匡 | |
| H19. 9. 8 | 平成19年度日本植物学会 特別賞 (技術) | 大学院理学研究科教授 | 東山 哲也 | |
| H19. 9.11 | 電子情報通信学会 通信ソサイエティ論文賞 | 大学院工学研究科教授 | 佐藤 健一 | |
| H19. 9.13 | 精密工学学会 技術賞 | 大学院工学研究科教授 | 社本 英二 | 鈴木教和 (大学院工学研究科助教) 他2名と連名 |
| H19. 9.13 | 電気学会優秀論文発表賞 A賞 | エコトピア科学研究所助教 | 小島 寛樹 | |

学生

| 受賞日 | 受賞名 | 所属・学年 | 受賞者 | 備考 |
|-----------|--|-----------------------------|----------------|--|
| H19. 3.16 | 第3回日本生物物理学会中部支部討論会 奨励賞 金賞 | 大学院理学研究科 M1 | 山川奈津子 | |
| H19. 3.21 | 電子情報通信学会 2007年総合大会 「優秀ポスター賞」 | 大学院工学研究科 M1 | 伊藤 寛訓 | 古橋 武 (大学院工学研究科教授)、 吉川大弘 (大学院工学研究科准教授) 他2名と連名 |
| H19. 4.25 | IEEE Vehicular Technology Society VTC 2007 Spring Student Paper Award | 大学院工学研究科 D3 | 羽多野裕之 | |
| H19. 5.10 | 情報処理学会東海支部 学生論文奨励賞 | 平成18年度本学修了生 (ブラザー工業株式会社) | 山代 大輔 | 古橋 武 (大学院工学研究科教授)、 吉川大弘 (大学院工学研究科准教授) と連名 |
| H19. 5.27 | 日本鑄造工学会 学生優秀講演賞 | 大学院工学研究科 M2 | 若松 拓志 | |
| H19. 5.27 | 日本鑄造工学会 学生優秀講演賞 | 大学院工学研究科 M1 | 大塚 春男 | |
| H19. 5.29 | 最優秀メカトロニクス論文賞 (Best Mechatronics Paper Award) | 大学院情報科学研究科 D3 | ハナフィア・ ユーソフ | 大岡昌博 (大学院情報科学研究科准教授)、 高田純平 (オリンパス株式会社)、 ムハマンド・アズミ・アユブ (マラ工科大学教授) と連名 |

受賞者一覧

| 受賞日 | 受賞名 | 所属・学年 | 受賞者 | 備考 |
|-----------|---|-----------------------------|-------------|--|
| H19. 6. 3 | 日本文化財科学会 第24回大会ベストポスター賞 | 大学院環境学研究所 M2 | 西本 寛 | 高田秀樹（能登町教育委員会）、 中村俊夫（年代測定総合研究センター長） と連名 |
| H19. 6.22 | 日本グループ・ダイナミクス学会 第54回大会優秀論文発表賞 | 大学院教育発達科学研究科 D2 | 原田 知佳 | 吉澤寛之（岐阜聖徳学園大学講師）、 吉田俊和（大学院教育発達科学研究科教授） と連名 |
| H19. 6.29 | 第34回東海若手セラミスト懇話会 2007年夏期セミナー 優秀講演賞 | 大学院工学研究科 M1 | 楠本 啓貴 | 笹井 亮（エコトピア科学研究所講師）、 伊藤秀章（エコトピア科学研究所特任教授）、 楠 美智子（エコトピア科学研究所教授） と連名 |
| H19. 6.29 | 第34回東海若手セラミスト懇話会 2007年夏期セミナー ベスト質問賞 | 大学院工学研究科 M2 | 今泉 晴貴 | |
| H19. 7. 9 | 情報処理学会コンピュータサイエンス領域奨励賞 | 平成18年度本学修了生 | 堀田 知宏 | 丸山 崇（平成18年度本学修了生）、 北 栄輔（大学院情報科学研究科准教授） と連名 |
| H19. 7.11 | General manger of “construction of world center on EPM” project The best discussion award | 大学院工学研究科 M1 | 萩尾 健史 | |
| H19. 7.13 | 第29回コンクリート工学講演会 年次論文奨 励賞 | 大学院工学研究科 D2 | アハメド カマル | 中村 光（大学院工学研究科教授）、 国枝 稔（大学院工学研究科准教授）、 上田尚史（大学院工学研究科助教）と連名 |
| H19. 7.13 | 2007年度 第2回「ロレアル－ユネスコ女性 科学者 日本奨励賞」 | 大学院理学研究科 D1 | 三浦 陽子 | 詳細は本誌172号 p.13参照 |
| H19. 7.13 | 日本コンクリート工学協会年次論文奨励賞 | 大学院環境学研究所 M1 | 寺本 篤史 | |
| H19. 7.28 | ICYS-ICMR Summer School on Nanomaterials 2007 Best Presentation Award | 大学院理学研究科 D1 | 浅田 有紀 | |
| H19. 8. 4 | DV-Xα 研究協会 第4回優秀オーラル賞 | 大学院工学研究科 D3 | 新里 喜文 | 斉藤由樹（大学院工学研究科 M1）、 湯川 宏（大学院工学研究科助教）、 森永正彦（大学院工学研究科教授）他2名 と連名 |
| H19. 8.11 | 第17回 FAN インテリジェント・システム・ シンポジウム・プレゼンテーション賞 | 大学院情報科学研究科 M1 | 黒田 卓也 | 脇田佑希子（大学院情報科学研究科 M2）、 北 栄輔（大学院情報科学研究科准教授） と連名 |
| H19. 8.11 | 日本植物病理学会 平成19年度 植物感染生 理談話会 優秀ポスター賞 | 大学院生命農学研究科 D2 | 浅井 秀太 | 吉岡博文（大学院生命農学研究科准教授） と連名 |
| H19. 8.11 | 日本植物病理学会 平成19年度 植物感染生 理談話会 優秀ポスター賞 | 大学院生命農学研究科 M2 | 間瀬 圭介 | 吉岡博文（大学院生命農学研究科准教授）、 水野貴仁（デュボンファームソリューション 株式会社、平成18年度本学修了生）と 連名 |
| H19. 8.18 | 第13回創発システム・シンポジウム 特別審査員賞 | 大学院工学研究科 M2 | 渡邊 航 | |
| H19. 8.29 | 2007年度（第18回）日本建築学会 優秀卒業論文賞 | 大学院環境学研究所 M1 | 井上 薫 | |
| H19. 8.30 | 日本知能情報ファジィ学会 奨励賞 | 平成18年度本学修了生 （ブラザー工業株式会社） | 山代 大輔 | 古橋 武（大学院工学研究科教授）、 吉川大弘（大学院工学研究科准教授）と 連名 |
| H19. 9. 6 | FIT2007論文賞 | 大学院情報科学研究科 D2 | 石田 皓之 | 高橋友和（日本学術振興会特別研究員）、 井手一郎（大学院情報科学研究科准教授）、 村瀬 洋（大学院情報科学研究科教授）と 連名 |
| H19. 9. 7 | 17th Iketani Conference The Doyama Symposium on Advanced Material-Doyama Awards | 大学院工学研究科 M2 | 西垣 拓 | |
| H19. 9. 7 | International Symposium on advanced Intelligent Systems (ISIS 2007) Best Paper Award | 大学院工学研究科 M1 | 郝 渤 | 古橋 武（大学院工学研究科教授）、 吉川大弘（大学院工学研究科准教授）、 杉浦伸一（医学部附属病院講師）と連名 |
| H19. 9. 9 | 日本分析化学会中部支部 支部長賞 優秀賞 | 大学院工学研究科 M1 | 小林 博治 | |

*受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成19年8月16日～9月15日]

| 記事 | 月日 | 新聞等名 |
|---|----------------------------------|-------------------------------|
| 1 福田敏男・工学研究科教授、DDS、美和ロックが産学連携で、防犯・防災に役立つ次世代ドアロックシステムの開発に着手 | 8.16 (木) | 日経 (朝刊) |
| 2 震災耐国：山岡耕春・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授は、「数年以内に地震が起きる可能性を予知する『中期予知』は、10年以内に実現するのでは」と話す | 8.16 (木) | 日刊工業 |
| 3 核心：鈴木康弘・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授は、発生から1ヶ月後の中越沖地震を分析 | 8.16 (木) | 中日 (朝刊) |
| 4 「医療事故調査委員会」(委員長・上田裕一・医学系研究科教授)は、藤田保健衛生大学病院の手術ミスを「手術方法が不適切であり、病院側は患者と家族に真摯に謝罪しなければならない」と結論づける | 8.16 (木) | 中日 (朝刊) |
| 5 風向計：フォーイン副社長・久保鉄男氏・本学卒業生 電子制御軸に車部品業界再編 | 8.17 (金) | 読売 |
| 6 中越沖地震 鈴木康弘・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授は、「東京電力の海底の調査で、断層本体は見えなくても地形の変形は確認できた。疑わしい地形は断層を想定し、耐震設計に反映させるべきだ」と批判 | 8.18 (土) | 読売 |
| 7 竹内恒夫・環境学研究科教授は、今回の40度を超える暑さは「人間の温室効果ガスの排出が、平均気温を押し上げているのは間違いない」と話す | 8.18 (土) | 中日 (朝刊) |
| 8 ビジネス交差点：松坂屋ホールディングス会長・岡田邦彦氏・本学卒業生 「どまつり」の自発性文化 大切に | 8.19 (日) | 朝日 (朝刊) |
| 9 中日新聞を読んで：中西久枝・国際開発研究科教授 日本とトルコ、民意の差 | 8.19 (日) | 中日 (朝刊) |
| 10 愛知県高校野球選手権大会名古屋地区予選：至学館12-2教育学部附属高校 敗退 | 8.20 (月) | 朝日 (朝刊) |
| 11 直球曲球：日本経済団体連合会副会長・榊原定征氏・本学卒業生 国の研究開発投資は不十分 | 8.20 (月) | 日刊工業 |
| 12 連絡帳：主要大学説明会8月25日～11月4日開催 | 8.20 (月) | 朝日 (朝刊) |
| 13 博物館の催し 「ミクロの美術館」9月29日まで開催 | 8.20 (月) | 朝日 (朝刊) |
| 14 ドクターアクア(本学出身の研究者が設立したベンチャー企業)とブラディッシュ(本学のベンチャー企業)が、共同で超純水を利用した基礎化粧品セット「アイアクアキュア」を商品化 | 8.20 (月) | 日経 (朝刊) |
| 15 レーザー：山岡耕春・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授 日本沈没? | 8.20 (月) | 日刊工業 |
| 16 中世史研究会2006年度総会・大会9月15日開催 | 8.21 (火) | 中日 (夕刊) |
| 17 医学部附属病院の研修医は医師臨床研修制度開始前の2倍の数に | 8.21 (火) | 中日 (夕刊) |
| 18 College mode：長橋侑万さん・本学学生 数学嫌いでも気楽に読める「マンガ微積分入門」 | 8.21 (火) | 中日 (朝刊) |
| 19 時日記：小林さやかさん・本学学生 内定出た！認めてもらえた！ | 8.21 (火) | 中日 (朝刊) |
| 20 書籍：「ヒマラヤと地球温暖化 消えゆく氷河」 藤田耕史・環境学研究科准教授ら4人が執筆 | 8.21 (火) | 中日 (朝刊) |
| 21 紙上ゼミナール：竹谷裕之・生命農学研究科教授 食のリスクに正しい理解を | 8.21 (火) | 中日 (朝刊) |
| 22 本学、東北大学、産業技術総合研究所の研究グループは、ごく微量の溶液を出すことのできるナノピペットを作製 | 8.21 (火) | 日刊工業 |
| 23 博物館コンサート 「魅惑の四重奏」28日開催 | 8.21 (火) 8.25 (土) | 中日 (朝刊) 読売 |
| 24 記者たちの現場：本学や東京大学で最先端の研究室体験をする、スーパーサイエンスハイスクールの岡崎高校 | 8.22 (水) | 中日 (朝刊) |
| 25 時のおもり：総合研究大学院大学教授・池内了・本学名誉教授 水俣訴訟と原爆訴訟 | 8.22 (水) | 中日 (朝刊) |
| 26 松尾一成さん、花田保之さん・本学学生が医学を学ぶ魅力を話す | 8.23 (木) | 朝日 (朝刊) |
| 27 田口富久治・本学名誉教授は、創刊20年を迎えた「レヴァイアサン」に疑問を呈する | 8.23 (木) | 朝日 (朝刊) |
| 28 老年学：愛知淑徳大学教授・井口昭久・本学名誉教授 孤独な母の背 盆の記憶 | 8.23 (木) | 朝日 (朝刊) |
| 29 ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「21世紀の創造」 高校生講座「野依教室」22日開催 | 8.23 (木) | 読売 |
| 30 医療をどうする：名古屋医療センター院長・堀田知光氏・本学卒業生 専門医制度 乱立で加速 | 8.23 (木) | 中日 (朝刊) |
| 31 環境学研究科博士課程入試で出題ミス | 8.23 (木) | 中日 (朝刊) 他3社 |
| 32 第9回につぼんど真ん中祭り24～26日開催 | 8.24 (金) | 朝日 (朝刊) |
| 33 本学、愛知県がんセンター、岐阜大学、三重大学の20人の医師が「がんのリンパ浮腫研究会」を発足 | 8.24 (金) | 中日 (朝刊) |
| 34 朝日カルチャーセンター：杉山直・理学研究科教授 「宇宙交響楽」、北門新作・本学名誉教授 「量子論の世界 II」 | 8.24 (金) | 朝日 (朝刊) |
| 35 日本気象学会中部支部第13回公開気象講座26日開催：神沢博・環境学研究科教授 | 8.24 (金) 8.26 (日) 8.27 (月) | 中日 (朝刊) 朝日 (朝刊) 中日 (朝刊) |
| 36 愛知県医師会健康教育講座9月6日開催 | 8.25 (土) | 中日 (朝刊) |
| 37 医療をどうする：濱口道成・医学系研究科長 医師臨床研究制度 習得すべき量増加一途 | 8.25 (土) | 中日 (朝刊) |
| 38 本学発のバイオベンチャー企業「オンコミクス」が、肺がんの再発予測を診断する方法を確立 | 8.25 (土) 8.31 (金) | 中日 (朝刊) 読売 |

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成19年8月16日～9月15日]

| 記事 | 月日 | 新聞等名 |
|--|----------------------|----------------------------|
| 39 松下裕秀・工学研究科教授らのグループが準結晶と呼ばれる固体の開発に成功 | 8.25 (土) | 中日 (朝刊) |
| 40 竹内恒夫・環境学研究科教授と本学大学院生、電通中部支社が環境意識向上プロジェクト「ECO LABO (エコラボ)」をスタート | 8.25 (土) 8.27 (月) | 読売 日刊工業 |
| 41 アーチェリー：菅原幸也さん・本学学生 個人で1位 | 8.26 (日) | 読売 |
| 42 「東海学士会寮歌祭」25日開催 | 8.26 (日) | 中日 (朝刊) 他2社 |
| 43 近世史研究会9月例会9月8日開催 | 8.27 (月) | 中日 (夕刊) |
| 44 「粒子線治療に関する講演会—ここまできた最先端がん治療」26日開催 | 8.27 (月) | 中日 (朝刊) |
| 45 探究 人：甲斐憲次・環境学研究科教授 黄砂求めて中国の砂漠へ | 8.27 (月) | 朝日 (朝刊) |
| 46 愛・知・みらいフォーラム：愛知医科大学理事長・加藤延夫・元本学総長 | 8.27 (月) | 中日 (朝刊) |
| 47 文部科学省の07年度の科学技術研究費補助金から助成する、特定領域研究の新規交付先に、カーボンナノチューブナノエレクトロニクス、たんぱく質の社会・機能発現と秩序維持、植物メリステムと器官の発生を支える情報統御系の3件が選定される | 8.27 (月) | 日刊工業 |
| 48 活写：高木賢治さん・本学大学院生 | 8.28 (火) | 中日 (朝刊) |
| 49 第49回 名古屋市民スポーツ祭水泳大会19日開催：福山鎮子さん・本学大学院生 平泳ぎ1位 | 8.29 (水) | 朝日 (夕刊) |
| 50 ひと：高エネルギー加速器研究機構准教授・大須賀関雄氏・本学卒業生 人として何が大切か オペラで訴えたい | 8.29 (水) | 毎日 (朝刊) |
| 51 「植田九条の会」発足のつどい9月9日開催：森 英樹・元本学副総長 | 8.29 (水) 9.11 (火) | 中日 (朝刊) |
| 52 第56回読売教育賞：選考委員の日比裕・本学名誉教授は、金杉朋子・慶応義塾大学湘南中等部講師の「アイデンティティ形成支援に向けた表現教育プログラムの挑戦」を、「10年にわたる『私という存在』を発表させるプログラムはさすがに重みがある。今後の実践と理論に期待したい」と話す | 8.29 (水) | 読売 |
| 53 皆川正・経済学研究科教授が会長を務める愛知地方最低賃金審議会は、愛知県の労働者の最低賃金(時給)を20円引き上げると発表 | 8.29 (水) | 日経 (朝刊) 他2社 |
| 54 内閣府副大臣に山本明彦氏・本学卒業生が就任 | 8.29 (水) 8.30 (木) | 毎日 (夕刊) 中日 (朝刊) 読売 |
| 55 産学連携推進本部の教員らが講師となり、企業を退職した技術者を対象に運営業務のノウハウや、産学共同研究プロジェクトの進め方を伝授 愛知県とNPO法人パイオものづくり中部がバイオコーディネーターの育成に乗り出す | 8.30 (木) | 日刊工業 |
| 56 林 祐太郎さん、福井和花さん・本学学生が、他大学の学生と読売新聞中部支社のインターンシップで名古屋港水族館と東山動物園を取材 | 8.30 (木) | 読売 |
| 57 風向計：中京大学経営学部教授・浅井紀子氏・本学卒業生 モノづくり技術革新に期待 | 8.30 (木) | 読売 |
| 58 紙上ゼミナール：医学博士・内田育恵氏・本学卒業生 お年寄りの難聴、早めの対処が大切 | 8.30 (木) | 中日 (朝刊) |
| 59 紙上ゼミナール：福和伸夫・環境学研究科教授 巨大地震から命を守る耐震化 | 8.30 (木) | 中日 (朝刊) |
| 60 中越沖地震 本学、東洋大学、広島工業大学の解析で、東京電力柏崎刈羽原子力発電所周辺の地盤が、10cm程度隆起していることを確認 | 8.30 (木) 8.31 (金) | 朝日 (夕刊) 読売 |
| 61 英国タイムズ紙による06年世界大学ランキング：本学128位 トムソンサイエンティフィックによる論文の被引用動向ランキングでは99位 | 8.31 (金) | 日刊工業 |
| 62 立松正衛・本学客員教授 がん医療の最前線について語る | 8.31 (金) | 中日 (朝刊) |
| 63 「ごみ減量先進都市なごや検討委員会」(委員長・奥野信宏・元本学副総長)は、ごみ焼却施設「南陽工場」に発電施設の併設を市に提言 | 8.31 (金) 9.11 (火) | 中日 (朝刊) |
| 64 市民フォーラム「日本人の高血圧を考える」10月14日開催：室原豊明・医学系研究科教授 | 8.31 (金) | 中日 (朝刊) |
| 65 「テクノ・フェア名大2007」9月7日開催 | 8.31 (金) | 日刊工業 |
| 66 本学は名古屋工業大学、豊橋技術科学大学や自治体、建築団体とともに2005年から3年間、「愛知建築地震災害軽減システム研究協議会」を発足 費用と効果の再評価を促す | 8.31 (金) | 中日 (朝刊) |
| 67 佐藤豊・生命農学研究科准教授と東京大学のグループが、イネの茎や葉の成長点を制御する遺伝子を発見 | 9. 1 (土) 9. 3 (月) | 朝日 (朝刊) 中日 (朝刊) 日刊工業 |
| 68 朝日カルチャーセンター：近藤孝男・理学部長 生物時計の不思議…時を計る kai 蛋白質、福井康雄・理学研究科教授 おどろきの宇宙、名古屋産業科学研究所 上席研究員・三矢保永・本学名誉教授 雲のかたちと空の色、古本宗充・環境学研究科教授 古本教授にきく地球講座～地球の不思議、地震の不思議 | 9. 1 (土) 9.13 (木) | 朝日 (朝刊) |
| 69 外国人が話す日本語サロン「東方儀礼大国の西海(黄海)から日本へ」15日開催 | 9. 1 (土) | 中日 (朝刊) |
| 70 医療をどうする：愛知県医師会理事・牧 靖典氏・本学卒業生 開業医の役割 | 9. 1 (土) | 中日 (朝刊) |

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成19年8月16日～9月15日]

| 記事 | 月日 | 新聞等名 |
|---|----------------------|--------------------|
| 71 全日本学生ヨット個人選手権大会31日開催 | 9. 1 (土) | 中日 (朝刊) |
| 72 病院の実力：前立腺がん治療の実績 | 9. 2 (日) | 読売 |
| 73 味な提言：名古屋短期大学保育科教授・小川雄二氏・本学卒業生 楽しく食べる子どもの食育 | 9. 2 (日) | 中日 (朝刊) |
| 74 「宇宙137億年の旅」8～17日国立科学博物館にて開催 | 9. 2 (日) 9. 9 (日) | 東京新聞 中日 (朝刊) |
| 75 全日本大学女子駅伝対校選手権東海地区予選会1日開催：本学は2位、全国大会に臨む | 9. 2 (日) | 読売 |
| 76 通風筒：本学などの国際チームが小型ロケット S520の23号機打ち上げ実験を行う | 9. 3 (月) | 中日 (朝刊) |
| 77 本学 2008年度入学試験 文学部、理学部、農学部、医学部で後期日程廃止 | 9. 3 (月) | 読売 |
| 78 らんきんぐ：国立大学長の報酬額 本学は6位 | 9. 3 (月) | 朝日 (朝刊) |
| 79 私を決める：1944年医学部で細胞や臓器の形態を記録する仕事をしていた丹羽和子氏 | 9. 3 (月) | 中日 (朝刊) |
| 80 医学部附属病院の土壌から基準値を上回る水銀や鉛など検出 | 9. 4 (火) | 中日 (朝刊) 他4社 |
| 81 名城大学教授・飯島澄男・本学特別招聘教授がバルザン賞受賞 | 9. 4 (火) | 中日 (朝刊) 日経 (朝刊) |
| 82 紙上ゼミナール：竹谷裕之・生命農学研究科教授 安全な食を支える社会の仕組みを | 9. 4 (火) | 中日 (朝刊) |
| 83 医学部を母体として愛知診断治療技術財団が治療にあたる、重粒子線がん治療施設が大府市に建設 2010年末のオープンを目指す | 9. 4 (火) | 読売 |
| 84 College mode：博物館「ミクロの美術館」展28日まで開催 | 9. 4 (火) | 中日 (朝刊) |
| 85 愛知学院大学第18回モーニングセミナー11日開催：濱嶋信之・医学系研究科教授が「遺伝子を用いた予防医療の最前線—あなたにあった予防法」の題で講演 | 9. 4 (火) | 中日 (朝刊) |
| 86 博物館特別講演会20日開催 | 9. 4 (火) | 中日 (朝刊) |
| 87 名東九条の会創立2周年のつどい『憲法をかえるって』なに、それ』15日開催：本 秀紀・法学研究科教授 | 9. 4 (火) | 中日 (朝刊) |
| 88 医療をどうする：県がんセンター総長・二村雄次氏・本学卒業生は、都道府県がん診療連携拠点病院への診療報酬での支援を望む | 9. 4 (火) | 中日 (朝刊) |
| 89 趙 彦民さん・本学大学院生の修士論文が、日本修士論文賞を受賞し本として出版 | 9. 4 (火) | 中日 (朝刊) |
| 90 この人に聞きたい：太陽地球環境研究所敷地内に残る豊川海軍工廠跡の保存について、本学は戦跡の史跡指定を検討する文化庁の調査報告を待つ | 9. 5 (水) | 中日 (朝刊) |
| 91 ツインマザーズクラブ「手をつなぐネットワーク」集会9日開催：医学部保健学科にて | 9. 5 (水) | 中日 (朝刊) |
| 92 芝井広・理学研究科教授、宇宙航空研究機構などのグループは、赤外線天文衛星「あかり」による観測で「M101銀河」の銀河外縁部で活発な星形成が行われていることを確認 | 9. 6 (木) | 中日 (朝刊) 他2社 |
| 93 医療をどうする：木内哲也・医学系研究科教授は、生体肝移植について「移植をうける患者、提供するドナーに対する心理的、社会的支援に力をいれてきた」と話す | 9. 6 (木) | 中日 (朝刊) |
| 94 環境に優しい「クルマ」の技術産業展2007 7～9日開催：森川高行・環境学研究科教授 | 9. 6 (木) | 中日 (朝刊) 日刊工業 |
| 95 文化：「東アジアと啓蒙」円卓研究会開催：長尾伸一・経済学研究科教授、フォヴェルグ クレール・本学外国人教師 | 9. 6 (木) | 中日 (夕刊) |
| 96 文部科学省の「大学院教育改革支援プログラム」に本学は、「法整備支援をデザインできる専門家の養成」「国際協力型発信能力の育成」「モノから生体をつなぐ物質科学者養成」「学生プロジェクトを支援する数理学教育」「専攻横断型の包括的保険医療職の育成」が選定される | 9. 7 (金) | 中日 (朝刊) 他2社 |
| 97 “第三の歯”と呼ばれるインプラント 上田実・医学系研究科教授は、手術中に死亡する事故について「インプラントは本来危険な手術ではないが、歯科医師のリスクについての認識が低いことが問題」と話す | 9. 7 (金) | 中日 (朝刊) |
| 98 「地震の予知と防災」6日開催：山岡耕春・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授は「発生直前の予知はパニックに陥る可能性がある」と予知の難しさを話す | 9. 7 (金) | 中日 (朝刊) |
| 99 国際開発研究科公開講座「途上国開発戦略の基本と最先端」10月2～12日まで開催 | 9. 7 (金) | 朝日 (朝刊) |
| 100 市民公開講座「安全なインプラント治療のために」9日開催：上田実・医学系研究科教授 | 9. 7 (金) | 中日 (朝刊) |
| 101 訃報：岐阜大学応用生物科学部教授・戸松修・元本学農学部助教授 | 9. 7 (金) | 中日 (朝刊) 朝日 (朝刊) |
| 102 本学、大阪大学、京都大学の研究チームが、爆薬反応型の地雷探知機の試作機を一般公開 | 9. 8 (土) | 中日 (朝刊) 他4社 |
| 103 松井翔さん、小久保美穂さん・本学学生が、広小路通りの車線減少計画について通行人100人にアンケート実施 | 9. 8 (土) | 中日 (朝刊) |

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成19年8月16日～9月15日]

| 記事 | 月日 | 新聞等名 |
|---|----------------------------------|---------------------------------------|
| 104 吉田純・医学系研究科教授は、KDDI と共同開発した携帯電話で高画質の CT や MRI 画像を見られるシステムについて、「セキュリティ面で対策が必要だが技術的には一般の医療機関に普及させるのは十分可能」と話す | 9. 9 (日) | 朝日 (朝刊) |
| 105 日本学術振興会特別研究員・水上知行氏と東京大学の研究グループは、愛媛県の岩石から天然のダイヤモンドを発見 | 9.10 (月) 9.11 (火) | 中日 (夕刊) 他2社 読売 日刊工業 |
| 106 本学 ベトナム・ハノイのハノイ大学に「日本法教育研究センター」設立 | 9.11 (火) 9.13 (木) | 中日 (朝刊) 読売 |
| 107 吉川史隆・医学系研究科教授は、知多市民病院から産科医を引き上げるにあたり「他の病院で産科医が足りなくなり、異動せざるを得なくなった。知多半島の小規模病院は統廃合の必要がある」と話す | 9.11 (火) | 中日 (朝刊) |
| 108 木曾川水系流域委員会 (委員長・辻本哲郎・工学研究科教授) は、今後30年の整備計画案を示す | 9.11 (火) | 中日 (朝刊) |
| 109 中村俊夫・年代測定総合研究センター教授は、愛知学院大学で発掘調査中の宮西遺跡を訪れ、炭化物を採取、加速器質量分析法による年代測定をする予定 | 9.11 (火) | 中日 (朝刊) |
| 110 医療相談 石黒直樹・医学系研究科教授 足裏に違和感。入眠剤の副作用か | 9.11 (火) | 読売 |
| 111 高木賢治さん・本学大学院生が、お年寄りを元気づける活動をしている NPO 法人「シニアライフサポート・フィオーレ」を取材 | 9.11 (火) | 中日 (朝刊) |
| 112 在日朝鮮人作家を読む会16日開催：浮葉正親・留学生センター准教授 | 9.11 (火) | 中日 (夕刊) |
| 113 生命農学研究科博士課程入試で出題ミス | 9.11 (火) 9.12 (水) | 中日 (夕刊) 他3件 読売 |
| 114 今年のノーベル賞の有力候補 名城大学教授・飯島澄男・本学特別招聘教授と戸塚洋二・東京大学教授 | 9.11 (火) 9.12 (水) 9.14 (金) | 中日 (夕刊) 毎日 (朝刊) 日刊工業 朝日 (朝刊) |
| 115 本学学生 鳥取砂丘に落書き | 9.12 (水) 9.13 (木) 9.15 (土) | 読売 日経 (朝刊) 他3件 朝日 (朝刊) |
| 116 第20回博物館コンサート コレギウム・ムジクムチェンバロコンサートへのお誘い15日開催 | 9.12 (水) | 中日 (朝刊) 毎日 (朝刊) |
| 117 2006年度決算 本学の純利益は13億円 | 9.13 (木) | 中日 (朝刊) |
| 118 本学から新判事補に2名採用内定 | 9.13 (木) | 中日 (朝刊) |
| 119 朝日カルチャーセンター：定形衛・法学研究科教授 バルカンの歴史と心の旅 | 9.13 (木) | 朝日 (朝刊) |
| 120 一般講演会「地球のひみつ～見えない地球の中を探る～」29日開催 | 9.13 (木) | 中日 (朝刊) |
| 121 市民に開かれつつある学会 日本植物生理学会広報委員の石黒澄衛・生命農学研究科准教授は「研究資金の大部分は税金。その成果を示すことは時代の要請」と話す | 9.13 (木) | 中日 (夕刊) |
| 122 エコトピア科学研究所が自然科学研究機構核融合科学研究所と連携協定締結 | 9.14 (金) | 日刊工業 |
| 123 「市公立大学法人評価委員会」が西野仁夫・名古屋市立大学理事長と松原武久・名古屋市市長に評価を報告 委員長の森 正夫・本学名誉教授は「大学改革に取り組み、中期目標の達成に向けて前進している」と話す | 9.14 (金) | 中日 (朝刊) |
| 124 東海地方 8月の地震：林 能成・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター助教 | 9.14 (金) | 読売 |
| 125 市民公開講座「健やかに過ごすためのリハビリテーション」医学部大幸キャンパスで10月13日開催 | 9.14 (金) | 中日 (朝刊) |
| 126 新司法試験 本学では41人が合格 中舎寛樹・法学研究科教授は「5～6年のスパンで見ないと、分析は出来ないだろう」と話す | 9.14 (金) | 朝日 (朝刊) 他3社 |
| 127 新司法試験 田中伸明さん・本学卒業生は失明乗り越え合格 | 9.14 (金) | 中日 (朝刊) 他2社 |
| 128 石井英資さん、関野堯さん・本学学生が毎日新聞中部本社のインターンシップで、産学連携した本学とファミリーマートのユニークな取り組みを取材 | 9.15 (土) | 毎日 (朝刊) |
| 129 日本臨床腫瘍学会第2回市民公開講座 がん薬物療法の今10月7日開催：安藤雄一・医学部附属病院准教授 | 9.15 (土) | 朝日 (夕刊) |

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

10月1日(月)～19日(金)

場 所：中央図書館 4階展示室
時 間：9時30分～17時00分
(土日祝とも)

附属図書館2007年秋季特別展

「『遊心』の祝福

—中国文学者・青木正児の世界—



[問い合わせ先]

附属図書館庶務掛 052-789-3667

**10月2日(火)～12月18日(火)の
毎週火曜日**

場 所：国際開発研究科棟 8階
多目的オーデトリウム
時 間：18時00分～20時00分 (全12回)
受 講 料：10,200円
(テキスト・資料代含む)

公開講座「途上国開発戦略の基本と最先端」

内 容：地球人口の8割を占め、今後の人口増加のほとんどを占めるようになる途上国の開発は、世界の大課題である。国連では2000年に「21世紀開発戦略」を出したが、そこに込められた諸課題はどのような構成を持ち、実現可能性はどうか、そういう戦略でいいのか、多くの議論がある。現時点で、途上国の開発の現状、これまでの経過、今後の展望はどのようになっているのか、中間総括的な議論を提示し、参加者の世界認識向上に寄与する。

※事前申込み締切ました。

[問い合わせ先]

国際開発研究科事務掛 052-789-4952

10月17日(水)

場 所：野依記念物質科学研究館
時 間：10時30分～12時00分
入 場 料：無料

社会と科学

講演題目：「国際交流」

講 演 者：嶋田 勉氏 (松下電器産業株式会社パナソニックスカラシップ社社長)

[問い合わせ先]

理学研究科物質理学専攻
小谷 明准教授 052-789-2954

10月18日(木)

場 所：国際開発研究科棟 8階
多目的オーデトリウム
時 間：13時00分～15時00分
入 場 料：無料

留学生のための就職支援セミナー

講演題目：「応募書類の重要性と書き方のポイント」

講 演 者：川瀬香代子氏 (キャリアアドバイザー)

講演題目：「実践編 効果的な表現方法で書いてみましょう！」

講 演 者：白戸絹江氏 (キャリアアドバイザー)

[問い合わせ先]

国際開発研究科
浅川晃広講師 052-789-4564

10月19日(金)

場 所：政策研究大学院大学
時 間：15時00分～

第5回名古屋大学東京フォーラム

テ ー マ：「アジアに繋ぐ知の架け橋
～飛翔するアジア諸国への法整備支援～」

内 容：本学は、「ことづくり」(卓越した研究成果)と「ひとつくり」(勇気ある知識人の養成)を通して地域や産業の発展に貢献するとともに、世界とつなぐアジア諸国との学術交流を推進し、成果を積み重ねてきました。この成果を広く国内外に積極的に、また、タイムリーに発信するため平成15年から東京地区において本フォーラムを開催しています。5回目となる今回は、名古屋大学学術憲章に基づき実施・進行している日本とアジア諸国との新しい関係を築き上げるための様々な先駆的事業のうち、「アジア法整備支援プロジェクト」「日本法令外国語訳プロジェクト」を取り上げ、日本司法の国際化をめぐる動向などを中心に、アジアにおける本学の取り組みを紹介します。



[問い合わせ先]

総務部総務課 052-789-2009

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

10月20日(土)、11月10日(土)

場 所：経済学研究科
カンファレンスホール
時 間：10時00分～12時00分

[問い合わせ先]

経済学研究科エクステンション・サービス
ecoextender@soec.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学オープンカレッジ「自由奔放！サイエンス」

10月20日
講演題目：「わかることと、できることとを、つなぐこと」
講 演 者：齋藤洋典（情報科学研究科教授）
11月10日
講演題目：「宇宙を実感してみようーブラックホール候補天体」
講 演 者：田原 謙（エコトピア科学研究所教授）

10月20日(土)、21日(日)

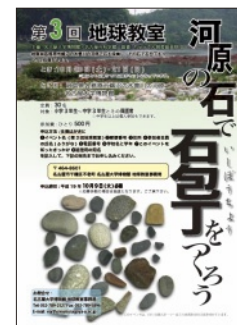
場 所：博物館講義室、岐阜県各務原市
鵜沼の木曽川河原
時 間：13時00分～17時00分（10/20）
9時00分～16時00分（10/21）
定 員：30名
対 象：小学3年生～中学3年生と
その保護者
参 加 費：500円

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

第3回地球教室（親子対象フィールドセミナー）

テ ー マ：「河原の石で石包丁をつくろう」



10月23日(火)

場 所：野依記念学術交流館

[問い合わせ先]

学務部学務企画課 052-789-2159

秋季入学式

10月26日(金)

場 所：環境総合館1階
レクチャーホール
時 間：14時00分～17時15分
入 場 料：無料
※要事前申込み

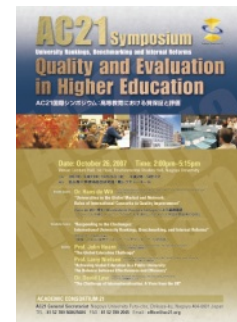
[問い合わせ先]

国際学術コンソーシアム（AC21）推進室
052-789-5684

AC21国際シンポジウム

「高等教育における質保証と評価」

講演題目：「グローバル市場とネットワークの中の大学：
質向上のための大学間国際連携の役割」
講 演 者：Hans de Wit 博士（Dean, Windesheim Honours College）
ラウンドテーブル・セッション：
「課題への対応：国際ランキング、ベンチマーキング、大学改革」
スピーカー：John Hearn 教授（シドニー大学副学長（国際担当））、
Larry Nielsen 教授（ノースカロライナ州立大学副学長）、
David Law 博士（ウォリック大学国際ディレクター）



10月27日(土)

場 所：生命農学研究科附属農場
「農業館」
時 間：14時00分～16時00分
定 員：60名
入 場 料：無料

[問い合わせ先]

生命農学研究科附属農場 0561-37-0210

地域貢献特別支援事業

「都市近郊の農業教育公園・講演会」

テ ー マ：「資源動物を知り、食といのちを考える」
講演題目：「黄身の中身と白身の中身」
講 演 者：村井篤嗣（生命農学研究科准教授）

11月3日(土)

場 所：IB 電子情報館大講義室、
名古屋国際ホテル
時 間：10時30分～19時00分

[問い合わせ先]

文系事務部
総務課総務グループ掛（文学部担当）
052-789-2202

**文学部創立60周年記念学術講演会・シンポジウム
及び記念式典**

内 容：学術講演会、学術シンポジウム、記念式典及び祝賀会



イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月3日(土)

場 所：名鉄百貨店ヤング館6階
マザームーンカフェ名古屋
時 間：10時15分～(90分程度)
定 員：30名(要事前申込み)
参 加 費：無料

サイエンスカフェ

講演題目：「小さい、軽い、丈夫
—産業界が注目する夢の新奇炭素物質ナノカーボン」
講 演 者：篠原久典(理学研究科教授)、齋藤理一郎(東北大学教授)



[問い合わせ先]

理学研究科篠原研究室 052-789-5188

11月3日(土)、12月22日(土)、1月12日(土)、2月2日(土)

場 所：医学部医学教育研究支援
センター超微形態室
時 間：13時00分～16時00分
定 員：10名
対 象：小学5年生以上
参 加 費：100円(保険料)

ミクロの探検隊 ～電子顕微鏡を使ってみよう～

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

11月10日(土)

場 所：生命農学研究科附属農場
「農業館」
時 間：10時00分～15時00分
対 象：小学生及びその保護者の方で、
原則として午前、午後どちらも
出席できる家族
募集人員：20家族程度
入 場 料：無料

地域貢献特別支援事業

「都市近郊の農業教育公園・農業ふれあい教室：親子農業体験」
内 容：親子で、土・作物・家畜と直接ふれあい、農業を体験・学習する機会とする。

[問い合わせ先]

生命農学研究科附属農場 0561-37-0210

11月10日(土)

場 所：博物館野外観察園、
セミナーハウス
時 間：10時00分～15時00分
定 員：20名
対 象：小学5年生以上
参 加 費：300円(保険料及び材料代)

地域貢献特別支援事業

「秋の野外実習～ドングリからさぐる古代の知恵・自然の知恵」
講 師：新美倫子(博物館准教授)、西田佐知子(博物館助教)

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

11月12日(月)

場 所：環境総合館1階
レクチャーホール
時 間：18時00分～19時30分
入 場 料：無料

第34回防災アカデミー

講演題目：「東京の防災まちづくりと耐震補強の現状および課題」
講 演 者：中林一樹(首都大学東京教授)



[問い合わせ先]

災害対策室 052-788-6038

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月17日(土)

場 所：東山キャンパス
時 間：9時00分～11時30分
(キャンパス探鳥会)
13時00分～14時30分
(セミナーハウス)

定 員：20名
対 象：小学5年生以上
参 加 費：50円

[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

地域貢献特別支援事業

「鳥っておもしろい ～キャンパス探鳥会&骨からみるトリ～」

講 師：蛭薙観順(博物館准教授)、新美倫子(博物館准教授)



11月19日(月)

場 所：ベンチャービジネスラボラトリー3階ベンチャーホール
時 間：13時30分～15時00分

[問い合わせ先]
情報科学研究科
末永康仁教授 052-789-3809

先端技術公開セミナー

講 演 者：外村佳伸氏(NTT-CS 研究所所長)

11月23日(金)～25日(日)

場 所：IB 電子情報館

[問い合わせ先]
エコトピア科学研究所
長谷川達也教授 052-789-4506

エコトピア科学に関する国際会議2007 (ISETS07)

内 容：一般講演、招待、講演、基調講演及び約340件のポスター講演

11月30日(金)

時 間：13時00分～
場 所：IB 電子情報館大講義室
入 場 料：無料

[問い合わせ先]
研究協力・国際部研究支援課
高等研究院掛
052-788-6051、6153

高等研究院フォーラム2007

テ ー マ：「若手研究者の育成とテニュアトラック制度－これからの大学人事改革を考える－」
講演題目Ⅰ：「若手研究者の自立的な研究環境整備促進事業について(仮題)」
講 演 者Ⅰ：科学技術振興機構または文部科学省関係者
講演題目Ⅱ：「名古屋大学のテニュアトラック制度について」
講 演 者Ⅱ：近藤孝男(高等研究院院長)
講演題目Ⅲ：「東京農工大学のテニュアトラック制度について」
講 演 者Ⅲ：柴田治呂(東京農工大学若手支援室長)
講演題目Ⅳ：「アメリカのテニュアトラック、その制度と根底に流れる理念」
講 演 者Ⅳ：菅 裕明(東京大学先端科学技術研究センター)
パネル討論会
司 会：坂神洋次(高等研究院副院長)

12月15日(土)

場 所：環境総合館1階
レクチャーホール
(あわせてホールにて展示、1階ラボと
4階「地域防災ホール」を開放)

[問い合わせ先]
環境学研究科
清水裕之教授 052-789-3745

第9回まちとすまいの集い

テ ー マ：「地球温暖化と都市・建築」

名大トピックス No.173 平成19年10月15日発行
編集・発行/名古屋大学広報室
本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。
名古屋市千種区不老町(〒464-8601)
TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/topics/>)でもご覧いただけます。

表紙

飛行機組み立て・走行試験の様子
(人力飛行機製作サークル「Air Craft」)
(平成19年5月13日)



66 『名古屋大学五十年史』一部局史・通史・写真集一

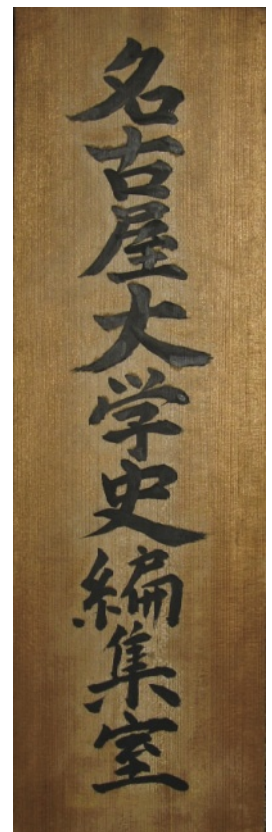
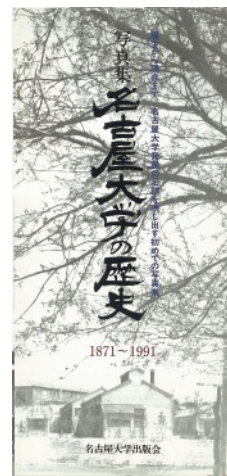
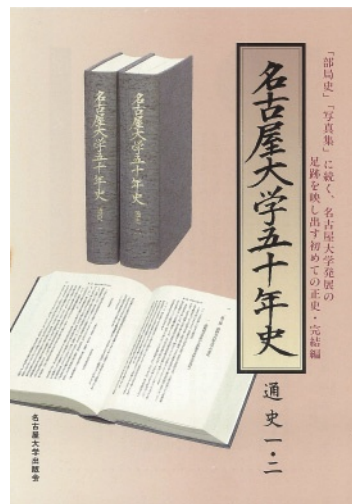
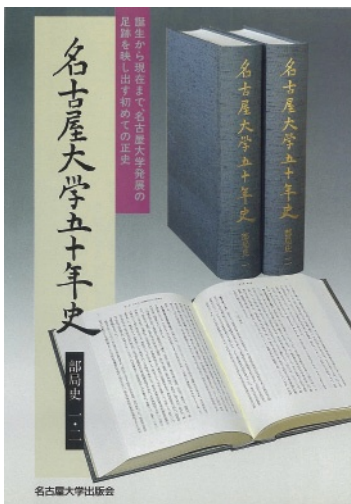
名古屋大学は、その淵源をたどれば1871（明治4）年の仮病院・仮医学校にまでさかのぼることができます。ただし、名大では1976年11月に開かれた評議会で、名古屋帝国大学官制施行日である1939年4月1日を名大の起点とすることが提案・承認されました。

その後1984年3月には、名大創立50周年記念事業の内容について予備的な検討を行うための委員会が設けられ、同年12月の評議会では、①名大史の編さんと刊行、②「学術交流基金」（仮称）の創設、③記念施設の建設、④記念行事の実施が承認されました。そして記念事業を実現するため、名古屋大学創立50周年記念事業委員会と名古屋大学史編集委員会の両委員会が設けられました。なお、この記念事業を後援するため、1987年9月には愛知県知事・名古屋市長・地元企業などからなる総勢1450名規模の名古屋大学創立50周年記念事業後援会（会長は名古屋商工会議所会頭）が発足し、募金活動などが展開されました。

1989（平成元）年11月9日、創立50周年記念式典が開催

され、学内外から関係者1500名の出席を得ています。これに先立ち、同年10月末には「初めての正史」として『名古屋大学五十年史』（部局史1・2）が刊行されました。また、1991年12月に『写真集 名古屋大学の歴史 1871～1991』、1995年10月には『名古屋大学五十年史』（通史1・2）がそれぞれ刊行されています。

これらの名大50年史刊行物の編集作業は、左記に述べた編集委員会のもとに設置された名古屋大学史編集室が中心となって行われました。この編集室は予定された編さん事業を終えた1996年3月末に廃止され、翌4月には「名古屋大学史に係わる資料の恒常的な収集、整理、保存及び活用並びに調査及び研究」を行う名古屋大学史資料室が設置されています。その後、同室は2001年4月に大学史資料室へと改称され、さらに2004年4月には名大の国立大学法人化に際して現在の大学文書資料室に改組され今日に至っています。



| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| | | 5 | |

- 1 部局史編案内リーフレット
- 2 通史編案内リーフレット
- 3 写真集案内リーフレット
- 4 編集室表札（1985-1996）
- 5 大学史資料室表札（2001-2004）

